

香友会だより

いあいさつ



同窓会会長
谷本 智昭

香友会会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より香友会並びに母校のためにご理解とご尽力を賜り心からお礼申し上げます。

平成23年は母校にとって創立100周年という輝かしい大きな節目の年でありましたが、多くの皆様のお陰で無事に創立100周年を迎えることができました。その概要をご報告申し上げます。

まず実行委員会を立ち上げ協議を重ねる中で、100周年記念事業として、100周年記念庭園とミニメントの設置・100周年記念室の整備・「百年史」の刊行を目標に掲げました。そして、その鋭意事業の推進を図ってまいりましたこともあり、お陰をもちまして昨年10月末には全て完了できました。

去る平成23年11月3日には、創立

100周年記念式典が、知事様をはじめご来賓、同窓会、PTAなど多数の方々のご出席を賜り、盛大かつ厳粛に挙行されました。そして、100周年という年輪と伝統ある歴史を踏まえ、新たな飛躍発展を誓いました。

また、同日祝賀会も開催され、旧教職員の皆様も多数ご出席を賜り、懐かしい時代を振り返り旧交を温めることができました。総勢170名を超え会場も満杯で大いに盛り上がりました。

このような大きな事業が成功裡に無事終了できましたのも、多くの皆様のご理解とご協力によるところであり、関係者の方々に多大なる感謝とお礼を申し上げます。

特に今回の事業推進にご協力いただきました理事や実行委員会に所属の皆様、各支部・地区の世話人の方々、また、趣旨ご賛同のうえ進んでご浄財をお寄せくださいました同窓各位、PTA各位、地元企業をはじめ有志の方々など関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

また、寄付者芳名録と収支中間報

告書は関係者にお送りさせていただきしました。

最終決算につきましては、同窓会総会にてご報告しご承認をいただくことにしています。

いよいよ母校は次の節目に向かって新たなスタートをきりました。今後とも一層のご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

最後に、会員皆様方のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

いあいさつ



校長
溝渕 祥民

梅雨空に紫陽花が映える頃となりました。香友会の皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私こと、今春の異動により、御縁あつて高松南高等学校に勤務することとなりました。八年の歳を隔て二度目の勤務となります。微力ながら本校発展のため、誠心誠意、励む所



発行者

香川県立高松南高等学校
同窓会会長 谷本智昭
香川県高松市一宮町531
印刷所 (株)中央印刷所

存でございます。どうぞ、よろしく願います。

さて、本校は、昨年、創立100周年の大きな節目を越え、その第二世紀へと新たな一歩を踏み出しています。本年は、福祉科で3学年の生徒が全て揃い、普通科、農業科、家政科そして看護科と、合わせて5学科を設置する総合制高等学校としての新たな陣容が整ったこととなります。専攻科看護科を含め850名の若人が、各々の個性をきらめかせながら、青春の日々を生き活きと送っているところです。

そのような学び舎の一隅に、過日、額紫陽花の涼やかな姿を目にしました。一般に「花」と思われている部分は正確には「装飾花」と呼ばれ、雄蕊と雌蕊は退化しています。花に見えるのは、実は「萼」で、全体の中心部にある密集した本来の花すなわち「両性花」の周囲に幾つかの「装飾花」が可憐に浮かんで、清楚に宙を舞い漂っています。

品種名は「墨田の花火」とのこと。装飾花を支える柄が長く、その先にある花に見立てられる萼は豊かな八



重です。これが咲き始めの頃は純白ながら、時の経過とともに薄緑やら淡い桃色へと変化します。このため、東京は隅田川の夏の夜空に開く花火をイメージしての命名と聞きました。私たちが普段よく見かける西洋紫陽花は、わが国原産の額紫陽花の改良品種であることや、額紫陽花の花言葉が「謙虚」を意味すること、知るところとなりました。

このような機会に接し、本校の教育も、創立以来の校訓を肝に銘じつつ、今後とも、総合制高等学校の特色を活かしながら、個性みなぎる生徒一人ひとりを大切にするという原点を忘れず、『見つめて、未来へ、南高』を合言葉に、よき変化を求めながら、着実に前へと進むことを願うものです。

同窓会の方々におかれましては、引き続きご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。ごあいさついたします。

創立100周年記念式典挙行

平成23年11月3日

清々しい秋を感じる中、来賓・同窓会員等約170名と全校生徒の出席により、母校の百一賀の祝いを行うとともに新たな発展を誓いました。

以下に、式辞及び挨拶文を掲載します。

式辞

校長 平尾 敏彦(当時)

一期一会という言葉には、「一生に一度の出会いを大切に」という意味が込められています。

創立100周年という大きな節目との出会いは、一生に一度以上の幸運な巡り合わせであり、感無量の思いで今この場に立っております。

本日ここに、香川県立高松南高等学校創立100周年記念式典を挙行するにあたり、香川県知事 浜田恵造様、香川県教育委員会委員長 藤村育雄様、香川県議会議員 松本公継様、高松市長大西秀人様をはじめ、多くのご来賓の方々のご臨席を賜り、



心から御礼を申し上げます。

遡ること100年、本校の前身である香川郡立香川実業学校は、わが国の近代教育制度が確立し、次第に整備されていくさなかの明治44年4月に開校いたしました。生徒募集に当たり1年生には入学試験が、また2、3年生には編入試験が実施され、男子121名、女子89名の計210名が合格し、香川郡の最高学府としての歩みが始まったのであります。

大正年間に着実な歩みの中、創立10周年の翌年大正11年に県に移管され、香川県立香川農業学校と改称。時代は昭和へと移り、5年程の甲種昇格への長年にわたる熱い思いは昭和16年、ついに現実のものとなりました。それに伴い女子部が独立することとなり、組合立の香川高等女学校が誕生。翌17年には県に移管され香川県立香川高等女学校となり女子教育は着実に継承されたのであります。

しかしながら戦時下という時節柄、勤労動員は学業半ばの中等学校生徒にもおよび、両校の生徒たちも食糧増産や工場勤務などに精励する中、終戦を迎え、昭和23年の学制改革により、いわゆる旧制中等学校時代の40年近くにおよぶ歴史に幕を下ろし

たのであります。

昭和23年4月、両校はそれぞれ香川県立香川農業高等学校、香川県立香川女子高等学校として歩み始めました。香川農業高校には新たに定時制課程も設置され、本校と3つの分校、塩江・香南・香北が置かれ、昼間だけでなく夜間の授業も開始されました。翌年の昭和24年4月、両校が統合して香川県立香川高等学校が誕生。普通科・農業科・家庭科の3学科を擁し、当時制定された校章の3つの菱形は、この3学科を示すとともに、真・善・美を象徴して現在に受け継がれております。その後、本県的高等学校における看護教育のさきがけとして昭和41年4月、衛生看護科が新設されました。

新制高校発足20年を機に校名変更が議論され昭和44年4月、香川県立高松南高等学校と改称。衛生看護科1期生の卒業に合わせて専攻科が設置されたのもこの年でありました。南高として歩み始めてすでに40年を超え、創立100年目に当たる平成22年4月、社会の要請にこたえるべく福祉科が新設され、5学科を擁する本校は、次世代を支える人材育成の場としての幅がさらに広がり充実度が増しております。

「課題のない時代はない」といわれますが、明治から大正、昭和そして平成にかけて歩んできた本校100年の歴史は、まさしくそのときどきの時代の要請に応え、次世代を担う人材を育成することであり、着実に成果を残してまいりました。現在

わが国においては、人口減少、少子高齢化、経済のグローバル化、防災意識の高まりなど、社会情勢は目まぐるしく変化しておりますが、魅力あふれるふるさと香川の将来に思いを馳せれば、本校の使命の重要性を改めて強く感じ、身の引き締まる思いであります。

正面を入れば、今日も左に校訓碑が輝き、空を仰げば、日章旗を中央に校旗と安全旗が並んではためています。諸先輩が築いて来られた歴史と伝統をしっかりと継承し、本校の新しい世紀を力強い歩みで発展させていくことを、ここにお誓い申し上げます。

平成23年11月3日

知事挨拶

香川県知事 浜田 恵造

この度、香川県立高松南高等学校がめでたく創立100周年を迎え、その記念式典がこのように盛大に挙行されますことを、心からお慶びいたします。

本校は、明治44年に香川郡立実業学校として創立され、今日まで、一世紀の長きにわたり、幾多の変遷を重ね輝かしい歴史を刻みながら発展を続けてこられました。

この間、「今日あるを感謝し 最善を尽くして 日々に進むべし」の校訓のもと、普通科、環境科学科、家政科、看護科、福祉科さらに専攻科看護科を併せ持つ総合制高等学校として、それぞれの学科の特色を活かしながら、生徒一人ひとりを大切

にする教育に取り組み、人材の育成と地域社会の発展に貢献してこられました。

ここに、歴代校長先生をはじめ、教職員各位の御努力に深く敬意を表しますとともに、多大の御支援を賜っておりますPTAや同窓会、地域の皆様方に、改めて心から感謝の意を表します。

さて、近年の社会経済情勢は、少子高齢化の進展、経済のグローバル化をはじめ、環境エネルギー問題が持ち上がるなど、大きな転換期を迎えています。

このような中、夢と希望あふれる香川づくりを進めていく上で、課題に立ち向かい、将来を築き支えることのできる、創造性豊かでたくましい人間を育成することが重要となっております。本校に寄せる県民の期待は、誠に大きなものがあります。

どうか皆様方には、100年の歩みを土台として、これまで培ってこられた地域社会との絆を大切にしつつ、新たな一歩を踏み出されますよう期待してやみません。

在校生の皆さんには、これまで3万8千名を超える先輩の方々が築き上げてこられた伝統を受け継ぎ、学業はもとより、スポーツや文化活動、さらにはボランティア活動などに励み、豊かな知性と人間性を養って、心身ともにたくましく成長されますよう願っています。

それでは、この記念すべき創立100周年を大きな節目として、今後とも香川県立高松南高等学校がますます

ます発展されることを祈念するとともに、御列席の皆様方の御健勝、御活躍をお祈りいたしまして、御挨拶いたします。

香川県教育委員会挨拶

香川県教育委員会

委員長 藤村 育雄

本日、ここに、香川県立高松南高等学校創立100周年記念式典が挙行されるに当たり、一言御挨拶申し上げます。

本校は、明治44年、香川郡立香川実業学校として創立されました。今日より遡ることまさに100年であります。その後大正11年に香川県に移管され、昭和16年に設置された香川郡町村組合立香川高等女学校と、昭和24年に統合され、香川県立香川高等学校となりました。新制高校としての本校は、全日制課程において、普通科、農業科、園芸科、衛生看護科などを設置するとともに分校を設置するなど、幅広く地域の人材育成



香川県議会議長代理松本公継氏祝辞

に努められました。昭和44年に現在の校名である香川県立高松南高等学校に改称し、同時に専攻科を設置して今日に至っております。

創立以来、本校で学ばれた卒業生は3万8千余名にも及び、各界において幅広く活躍されていることは、誠に心強い限りです。

一世紀の時を経た現在、本校では二十一世紀における我が国の担い手として、社会に貢献しようとする健全な徳性と優れた知性を持ち、主体的に判断し行動する創造性豊かであ

くまい人間の育成を目指す教育方針のもと、普通科、環境科学科、家政科、看護科、福祉科の5学科と専攻科をもつ総合制高校として、その特性を活かした教育が推進されております。部活動においては、相撲部、テニス部、ソフトボール部をはじめとする数多くの運動部が全国大会で活躍し、文化部においても環境科学部が農業クラブ全国大会で入賞を果たすなど、数々のすばらしい成果となって現れています。これもひとえに、生徒諸君や教職員各位のご努力、卒業生、保護者並びに地域の方々の格別なご支援の賜物と深く感謝し、敬意を表するものであります。

今後、さらに産業界や地域社会との連携を深め、時代の進展に対応した特色ある学校づくりを一層推進されますとともに、在校生の皆さんは、先輩諸氏が築かれた伝統を受け継ぎ、学業や部活動に励み、心豊かでたくましい人間として成長していただきたいと切に願う次第であります。

終わりに、本日の記念すべき創立100周年の式典に当たり、香川県立高松南高等学校の果たしてきた功績を讃えまともに、今後の限りないご発展を心からお祈り申し上げます。挨拶いたします。

祝辞

同窓会会長 谷 本 智 昭

母校が創立100周年を迎えるに当たり、同窓会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

創立100周年本当におめでとうございます。同窓生一同この上ない慶びであります。

顧みますと、母校は明治44年に香川郡立香川実業学校として発足後、社会の変遷と共に学制改革もあり、時代の要請にこたえるべく、学校の統合や学科の改編さらに学科の新設などを経て、今日に至るまでには、大きく変貌をとげました。そして現在、5学科と1専攻科を持つ名実ともに全国有数の総合制高校として発展してまいりました。

このように発展した母校が今日あるのは、県ご当局はもとより、歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様のご指導やご尽力、また同窓会やPTAなど多くの皆様のご支援やご協力のおかげであります。同窓会として、関係者の皆様に対し、深甚の敬意と心からの謝意を表したいと思っております。そして、この100年の歩みの中で、母校は3万8千名の卒業生を輩出してまいりました。特色ある学科が多いことから、卒業生は各界・

各方面で活躍されています。このことは母校の大きな特色であり、同窓生としても誇らしくまた心強い限りであります。

この度、伝統に輝く母校の未来に向かつての発展を期待するため、同窓会・PTA・学校からなる創立100周年記念事業実行委員会を発足させ、100周年記念庭園とモニユメントの設置、100周年記念室の整備、「100年史」の刊行、記念式典などの記念事業を計画し実現いたしました。

記念事業につきましては、同窓会、PTAをはじめとして、関係各方面の皆様のご支援とご協力をいただきました。ここに改めて御礼を申し上げます。

ところで、学校が大きく変貌をとげる中にあっても、一貫して受け継がれ、現在の教育の中に力強く息づ

いているのが校訓であります。卒業生として有難いことと思っております。校訓は人間としての生き方までも指南した含蓄のある言葉であり、私どもの心の拠り所となっております。最後になりましたが、母校の未来に向かつて更なる飛躍発展を祈念し、合わせて記念事業に関わってこられた関係各位に厚く御礼を申し上げます。祝辞いたします。

祝辞

PTA会長 泉 満(当時)

高松南高等学校 創立100周年 まことにめでとうございます。PTAを代表し、心よりお祝い申し上げます。

この南高校の素晴らしい伝統と歴史については、さきほど校長先生よりお話がありました。あらためて先人のためめ、ご尽力に心から

大西秀人高松市長祝辞

(高松市ホームページより)

香川県立高松南高等学校100周年記念式典



この度、香川県立高松南高等学校が記念すべき創立100周年を迎えられ、本日、同校で開催された記念式典に出席して、お祝いの挨拶をしました。

南高は、明治44年に香川郡立香川実業学校として創立され、これまで、実に3万8千余名もの個性豊かな人材を各界・各方面に輩出してこられました。百年の長きに渡るあゆみの中で、その時々々の社会の要請に応えながら取り組まれた教育は、本市の発展にも大きく寄与していただいたものと思います。また、現在は、5学科1専攻科を擁する総合制高校として、文武両面において、存分にその特色を発揮されています。

本市では、将来を担う子どもたちの生きる力を育む教育の充実に向け、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいるところです。本日御出席の、教職員、PTAならびに地域の皆様方には、この度の創立100周年を契機として、今後とも、未来の郷土を支える人間性豊かな人材の育成と、地域に根ざした学校づくりに、なお一層の御尽力を賜うお願いしました。

敬意を表するものであります。

この南高校の100年の時に、日本の100年を振り返り見れば、日本はすさまじいまでの発展をとげてまいりました。明治維新、そして戦後の経済発展を経て、世界一の先進国へと。しかし今、時代は数世紀に一度の大転換期を迎えています。このような先の見えない、混沌とした時代には必ず、次の時代への橋渡しとなる若者が彗星の如くあらわれ、日本を動かし導いてきました。地位や名声にとらわれることなく、自分の信念をつらぬく、そんな若者を時代は求めています。この南高校より困難な時代を切り開く若駒が、今まで以上に輩出されんことを期待してやみません。

これからの日本の未来であり希望である、在校生の皆さんに、本年10月に亡くなったアップルコンピュータの創立者であるスティーブ・ジョブズ氏が一生大事にしていた言葉を送ります。(これは2005年のスタンフォード大学の卒業式で述べた有名な言葉です)それは、『ステイ・ハングリー スティ フーリッシュ』常に貪欲であれ、常に愚直であれ。最後に高松南高校が次の100年に向けてますます発展されんことを心より祈念申し上げ お祝いの言葉と致します。

生徒代表のことば

生徒会長 山端 和弘(当時)
本日は、全校生徒の皆さんや多数のご来賓の方々とともに、本校の創

立100周年をとともに祝えることをうれしく思います。

私は土木について学ぼうと思い、環境科学科を選んで入学しました。入学後、普通科や看護科、家政科、福祉科でどんなことをしているのかわりました。それぞれの学科では、学んでいることは違っていますが、一人一人が高校生活を楽しくしています。そういった意味で、高松南高校は、多様性に富んだ学校です。毎日を過ごしながら、この高松南高校がますます好きになりました。

私は、「今日あるを感謝し、最善を尽くして、日々に進むべし」という校訓に、親しみを覚えていきます。高松南高校の生徒は、この校訓を意識した生活を自然体でしていると思います。

放課後は、毎日明るく元気な声が校内に響きます。新人戦や総合体育大会でも気合を入れ、立派な成果をおさめています。文化部も運動部に負けないぐらい、実績をあげています。勉強もしつかりやっています。夏休みにも松溪館で学習合宿をし、勉強漬けになる友人もいます。

高松南高校は、農業学校を前身とし、現在は、環境科学科、家政科、普通科、看護科、福祉科の5つの学科をもっています。

この100年の間、「日々に進むべし」を実践し、社会の流れに合わせ大きく進化してきました。

今後、私たちは先輩方が作り上げてきた伝統をしっかり受け継ぎ、それを後輩に伝えていきます。

香川県立高松南高等学校創立100周年記念事業

「時を超えて」に込めた思い

京都府立洛北高等学校 教諭 小野 啓巨(日展会員)
私たちは、多かれ少なかれ、次の世代へより有効な情報を引き継いでいきます。先輩から後輩へ、教師から生徒へ、親から子へなど少しずつより良いものを求めて自分が得たものを伝えていきます。

100周年記念のモニュメントを制作するにあたり、老人と若い娘を組み合わせることでその営みを表現してみようと思いました。老人は今まで歩んできた南高の100年の象徴、若い娘はそれを引き継ぎこれからの100年を築き上げる力の象徴としています。二つの彫像の間にできる隙間は、お互いの布に作った流れを呼応させ環状の空間を作ることで繋げてみました。その空間の中で、引き継いでいくべきものが二人の間を永遠に循環します。

また、二人とも遥か彼方にある同じ未来を見ています。その眼差しは南高の100年後—今までの100年を礎に一人ひとりを大切にしながらより多様化され発展していく—を、「時を超えて」見つめています。

(昭和54年卒)

南高創立100周年記念庭園 作庭にあたって

末澤緑地株式会社 代表取締役 末澤 保
100周年記念庭園の作庭に当たっては、コンペティションの結果、当社の設計計画が採用され「見つめて、未来へ、南高」というテーマのもと、施工致しました。

設計趣旨としては、60周年、80周年記念で整備された既存の景石や樹木を最大限に活かし、新たに設置される100周年記念モニュメントともなじむように庭園設計を致しました。また中庭全体の雰囲気明るくするという点があり、現状では生徒が中庭を通路としてしか利用していないという点がありましたので、例えば中庭で食事できるような、皆が集える空間になることを考え設計しました。施工に当たり、現状の正方形のコンクリート舗装が暗い印象がありましたので市松模様のカラー舗装にして明るい未来を感じる空間を作りました。また中央付近を石積みの仕切りにし低木を植えることで、既存のウバメガシが活かされるように、また移植したソテツ周辺にはタマイブキを植栽し、旧ロータリーのイメージを崩さぬように作庭いたしました。

これまでの歴史の詰まったこの記念庭園が生徒達が集う場所に、また卒業生にとっては母校を懐かしむ再会の場となるよう願っております。

(昭和39年卒)



創立100周年記念庭園



創立100周年記念室



記念モニュメント



百年史発刊



植松おさみ&起代子ジョイントコンサート

ピアノと語りでたのしいひとときを！

創立100周年記念コンサートは、平成23年11月3日(祝・木)記念式典当日、式典後に開催した。植松おさみ氏は、1966年本校を卒業後、1970年に西日本放送入社、お国ことば「讃岐弁」の温かい語り口で幅広い世代から支持され、在局中、人気アナウンサーとして、常に第一線で活躍された。2003年早期退職後も西日本放送ラジオ「気ままにラジオ」の司会を担当、香川県知事より香川県情報発信参与として委嘱を受け、香川の郷土を紹介するなど幅広く活躍されている。創立100周年記念コンサートでは、起代子夫人が奏でるショパンの調べと植松氏の柿本人麻呂の和歌、音楽物語「朱雀門」等を心にしみいる高尚な語りが参会した一同を魅了し、拍手喝采の大盛況であった。



祝賀会



お詫びと訂正

創立100周年記念事業寄付者芳名録で報告させていただきました寄付者の御芳名に過誤等がございました。謹んで訂正いたしますとともに、御寄附をいただいた方および関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことを心よりお詫びいたします。

芳名録頁 誤報内容 訂正内容

- | | | |
|----|--------|---------|
| 5 | 熊野 律子 | 猪熊 律子様 |
| 10 | 小比 勝博 | 小比賀勝博様 |
| 12 | 瀬尾 御廻 | 瀬尾御廻向様 |
| 14 | 久米 直樹 | 久米直直樹様 |
| 14 | 五ノ 和彦 | 五ノ坪和彦様 |
| 15 | 大林 和彦 | 大林 和彦様 |
| 15 | 大林 留美子 | 大林 留美子様 |

記載ものの方

高松市 堀上由美子様(昭52)



支部だより

〈関西支部だより〉

関西支部長 太田 喬

わが母校の歩みを集大成した「百年史」を見ると、様変わりしている1世紀の歴史の中に、改めて青春時代の思い出が駆け巡ってくる。楽しかったこと、苦しかったこと…忘れていた現象が甦ってきます。

この記念すべき創立100周年になる昨年6月11日、関西支部の第13回総会、懇親会を大阪・道頓堀ホテルで開催。香友会本部から谷本智昭会長、母校の平尾敏彦校長をはじめ遠藤百合子、玉地悦子、山崎由美子、新名文恵、西村玲子、須田まゆみ、亀田直樹各先生方が出席され、2年ぶりの楽しい集いとなりました。

全体の同窓会となると集まりが少ない。年齢を重ねないと関心がわかないのかなあ。ところが、今回は珍しくフレッシュな女性卒業生3人組が顔を見せ、会場は一段と華やかな雰囲気。西川千尋さん、松井麻衣子さん、東原彩音さんです。先生たちと久しぶりの会話がはずんでいました。



〈香川町支部だより〉

香川町支部長 松原 証明

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」芭蕉は人生を旅にたとえた。母校の旅も歩みを重ねて、百周年を迎えた。

その百周年の記念式典も盛大に行なわれ、卒業生達も心楽しい気持ちで過されていると思います。行事に関係された皆様方のご苦勞に對

恒例になっているビンゴゲームは景品を抽選にして、また盛り上がりました。

この日は、悲惨な東日本大震災からちょうど3か月目。関西在住の私たちは阪神淡路大震災を経験しており、被災地への哀悼の意をこめて手拍子で会を締めくくりました。

して、心より感謝の意を表したいと思います。

さて、私の支部も、十一月に総会を開催し、本部より谷本会長様、学校より関係職員のご出席をいただき、盛大に行われましたことを厚くお礼申し上げます。これからの活動に備え新しい役員を選出、新たな気持ちで活動をしていきたいと思います。

支部は三地区(川東、安原、浅野、大野)に分かれ、それぞれに活動を行っております。毎年一回総会を開催し、互に連絡をとりながら、活動が続いておりますが、地域が広いいため、十分な活動が出来ているか、どうか心もとないところもありますが、新役員力を合わせて充実した活動をしたと思っています。

次に新役員を紹介いたします。
会長 松原 証明(川東)
副会長 妹尾 長(浅野)
溝口 幹夫(大野)



庶務会計 川松 義春(川東)

〈二宮支部だより〉

一宮支部長 日下 豊

平成二十三年八月七日九時よりマツノイパレスにて総会を開催致しました。

ご来賓として同窓会会長 谷本智昭様、本校より平尾校長様はじめ、山崎先生のご臨席を頂き、誠にありがとうございました。

次の議事について討議しました。
一、平成二十二年事業報告並びに会計決算報告
一、平成二十三年事業計画案並びに会計予算案

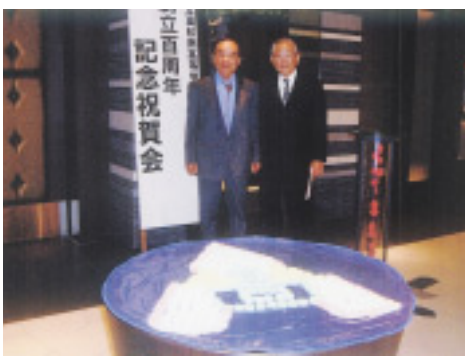
一、その他で百周年募金と記念誌の件
すべて原案どおり承認されました。

募金状況について、一戸当り年会費壹仟圓を長年多くの方のご協力して戴きその預金より会員戸数参百貳拾参戸、一戸当り壹万円、参百貳拾参萬圓其の上特別寄付として金五

拾貳萬八仟圓合計金、参百七拾五萬八仟圓也を寄付致しました。

記念誌に付きましては一戸当り壹萬圓以上の方に無料で配布しました。創立百周年記念行事も十一月三日盛大に無事終わりました。

皆々様のご協力誠に有り難く感謝申し上げます。最後になりましたが、母校並びに会員の皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



会員各位

一宮支部長 日下 豊

高松南高等学校同窓会
一宮支部総会ご案内

向暑の候、会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

標題の同窓会一宮支部総会を下記のとおり開催します。会員多数お誘い合わせの上ご参会下さいますようお願い申し上げます。

記

- 日時 平成24年8月4日(土)
開会 午前9時00分～
●午前8時30分、高松南高等学校松溪館北側からバス出発
- 場所 マツノイパレス(香川町)
- 内容
 - 開 会
 - 支部長あいさつ
 - 来賓祝辞
 - 議 事
 - ・会務報告
 - ・決算承認の件
 - ・予算承認の件
 - 閉 会

卒業生リレー寄稿⑧

「思い出」

昭和45年3月

普通科卒業

玉地 悦子
(旧姓岡)

私は、昭和42年に香川県立香川高等学校に入学し、45年に校名変更した高松南高等学校を卒業しました。そして、昭和49年に看護科教員として母校に赴任、今春、母校を最後に教員生活を終えました。

その間、転勤をしましたが、13年前に再び母校に戻り、創立一〇〇周年記念行事に参加できたのは、本当に感慨深い思い出になっています。高校時代は、南校地にあった東西に長い、古かったのですが木造二階建ての立派な校舎で、二年生を過ぎ、三年生は、旧本館が新築の頃にその三階で静かにゆったりと時間を過ごしました。

その頃、北体育館の南西には木造の小さな建物があり、そこが食堂でした。当時は、おうどん位しかありませんでしたが、トッピングのコロッケは、すでにありました。

また、第一校舎の現在の体育教官室は、筆記用具や校章などを販売する売店で、現在の進路指導室は、個人用のボックス型の視聴覚設備の整ったLL教室でした。部活動がESS部だったので、英語検定の準備のために活用したのが思い出されます。

そして、校庭の緑の樹木たち。正門の正面にあったロータリーのソツの木は三年前の、本館建て替えに伴い北体育館の南西に移植されましたが、学校創立当初の古い写真には、あの場所ですでに校訓碑と共にソツがありました。校舎を挟んで、その北側には二本のヒマヤ杉、そして九本の銀杏の木が、南高校の原風景として、いつも私の心の中に風を運んでくれています。

生徒として、教員として南高校で過ごした時間は、私の人生の多くを占めています。沢山の人の出会い、沢山の思い出が、私の宝物として、深く心の中に刻まれています。本当に有り難うございました。

最後になりましたが、母校の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

「振り返って思う事」

昭和60年3月

農業土木科卒業



寺南 隆之

私の人生を今振り返ってみると高校進学の際に、「南高の普通科にしようか?土木科にしようか?」と考えていましたが土木科に進んで正解だったと思います。高校卒業後は、就職すると決めていた私に、「就職に有利な土木科に進学したら。」と言う両親のアドバイスもあり土木科を受験し入学しました。

入学する前から分かっていたことですが、女子率の高い南高において当時の土木科は男子クラスで、男ばかりと言う意味では気を遣わなくて良い反面ちょっと、寂しい思いもしました。その寂しい思いを同窓会でも味わうことになろうとは……。もちろん担任の先生も男ですから、集まるのは男ばかりです。若い頃はそんな思いもしましたが、40歳を過ぎた頃くらいから、高校時代のように気を遣う事無くワイワイやれることが、これまた楽しく思えるようになってきました。

在学中は、勿論専門分野の授業が主体で、実習時間も多く作業着に着替えて教室の外での測量実習や鉄筋を組んでコンクリートで物を作るなどの授業も多く時間が経つのが早かったと思います。逆に普通科目の時間が長く感じられたことは言うまでもありません。農業土木科と言う名前の方に農業について勉強したのは、1年の時の農業基礎位だったような気がします。その農業と言う名前のおかげで、秋には収穫祭と言う行事があり香東川の河川敷で楽しくバーベキューをしたのを思い出します。

南高土木科で3年間を過ごしたおかげで、腹を割って話が出来る友人を作る事も出来ました。今も年に1・2回程度集まって飲み会を開催しています。

また私の職場には、南高土木科の先輩が多くおられます。就職した時には、大変心強く思えました。

最後に今年の3月に南高を退職されました我らが担任蓮井正宏先生ありがとうございました。そしてお疲れさまでした。

「安定じゃなく、チャレンジ」

平成10年3月

専攻科衛生看護科卒業



滝川 真理

小学校6年生の時に書いた将来の夢。「やさしいナース」それから20数年。今、一応ナースです。

一度きりの人生、悔いのないように、常に突っ走ってきました(今も)。まずは、将来障がい児と関わりたいがために、救命救急センターでバリエリのナース体験。そして、予定通りに養護学校での保健室の先生。本来はここで安定するはずでした。でも、養護学校で動いているうちに、もつと障がい者と関わりたいと思い、この不況の中、安定の公務員を辞め、茨の福祉現場へ飛び込んでしまいました。こんな私、衛生看護科時代から、なぜか障がい者支援に興味を持ち、ボランティア開始。10年以上続け、その代表が設立した施設で、働いています。プライベートでも、障がい者に踊りを教えています。ナースと言えば、病院のイメージですが、色々な現場にいます。もちろん病院や診療所、学校の先生、老人ホーム、そして障がい者施設。私は、この障がい者施設で管理者をしています。

看護業務だけではなく、踊ったり、アルミ缶をつぶしたり、障がい者の介護を行っています。今一番の夢は、プライベートで教えている、踊りのチームが本場よさこい祭りに出場すること。6年越しの夢、この夏にかなえます。そして次なる野望、障がい者のケアホームを作ること。ナースになったらゴールじゃありません。

「支え」

平成17年3月

普通科卒業



湊 恭子

南高を卒業して、7年が経ちました。あつという間の7年で、今でも南高での思い出は昨日の事のようにです。

在学中は、女子バスケットボール部に所属し、マネージャーを務めていました。

毎日、外が暗くなるまで練習があり、土日になると練習試合や合宿が行われていました。大変だった事もたくさんありましたが、今思うと、仲間がいたから全て乗り越えられたんだと思います。

バスケット部はみんな仲が良く、何でも言い合えるとてもいい関係です。

卒業後、就職や結婚でみんなバラバラになってしまつてなかなかすぐに会えなくなりました。しかし、時々会つてじっくり話したり、電話やメールで近況を報告しあうなど、今でも仲が良く、「ほつ」とできる関係です。私にとって大きな支えになっています。

現在は、ずっと小さいころからの夢であった保育士として働いています。毎日子どもたちのたくさんの笑顔に囲まれてたくさんの元気をもらっています。

南高で学んだたくさんの事や家族や友達、先生や仲間への感謝を忘れずにこれからも頑張っていきたいと思っています。

平成24年度

南高祭

テーマ Smile～みんなが笑顔になれる時～

2-3 藤沢 杏季さん

9月8日(土)

9:30～15:00

(終日一般公開)

キャラクター



1-7 田頭 萌さん

バザー、野外展示、教室展示、ステージ活動、看護科展、環境科科学展、環境科学都市園芸コース販売、家政科展、家政科(服飾デザインコース)ファッションショー等福祉科展

香川県立高松南高等学校吹奏楽部

第33回定期演奏会

日時 平成24年8月10日(金) 18:30開演

会場 サンポートホール高松・大ホール

曲目

第1部

♪吹奏楽のための「風え舞」

♪今年度 吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ

行進曲「よろこびへ歩きだせ」

第2部

♪お楽しみステージ

第3部

♪たなばた

～ The Seventh Night of July ～

♪となりのトトロ

～ コンサートバンドのためのセレクション ～

♪ご来場をお待ちしております♪

全席自由
入場無料

事務局より連絡

創立100周年記念事業刊行した「百年史」が未だあります。一万円の御寄附をいただいた会員・特別会員に贈呈致しますので、ご希望の方は事務局(TEL087-885-1131)までご連絡ください。

平成24年度香友会評議員会及び総会の開催について(ご案内)

向暑の候、会員各位におかれましては益々ご健勝にてご活躍のことと、お慶び申し上げます。

さて、例年のとおり、同窓会(香友会)の通常総会を下記日程にて開催いたしますので、友人、知人、お誘い合わせの上で出席くださるようご案内申し上げます。

1. 日 時 平成24年8月4日(土) 10:00～
2. 場 所 評議員会・総会 マツノイパレス
(香川町 tel 087-879-3411)
- 懇親会 マツノイパレス(香川町)
3. 日 程 9:30～10:00 受付(マツノイロビー)
10:00～11:30 評議員会・総会 マツノイパレス
11:30～ 懇親会
4. 議 事 ① 平成23年度事業報告並びに会計決算報告
② 平成24年度事業計画案並びに会計予算案
③ その他

マツノイパレスのバス(45人乗)が学校から会場まで送迎しますので、ご利用ください。

●8:30 高松南高校松浜館
北側から出発

- 恐れ入りますが、準備の都合上、ご出席の有無を **7月27日(金)**までに、電話、ファックス等で事務局までご連絡下さい。
- 懇親会の会費(4,000円)は、当日徴収させていただきます。

香川県立高松南高等学校香友会事務局 遠藤 百合子 TEL(087)885-1131 FAX(087)885-1133

FAX送付書(高松南高校 FAX番号087-885-1133)

香川県立高松南高等学校香友会事務局宛

平成24年 月 日

送信者ご芳名

ご住所

TEL

平成24年度香友会総会(8月4日)

() 出席します

() 欠席します

・その他連絡事項